

(第3種郵便物認可)

2010年(平成22年)11月18日(木曜日)

# 「手ぬぐい酒」でほっこり

来年の干支にちなんで、うさぎの柄の手ぬぐいに包んだ日本酒「干支手拭包」が来月3日、尾畑酒造(佐渡市)、中川酒造(長岡市)、高の井酒造(小千谷市)からそれぞれ発売される。共同企画した3社は「普段は日本酒を飲まない人も、これをきっかけに味わってほしい」と呼びかけている。

## 来月3日発売

きっかけは、高の井酒造が今年夏の中元用に、染物屋の老舗「越後亀屋藤岡染工場」(阿賀野市)の手ぬぐいで、日本酒の瓶を包んで他の3社と売り出したところ評判を呼んだこと。歳暮の時期を迎えた今回は、この企画に関心を持った別の2社が参加した。

発売する日本酒は各720ミリ・リットルで、尾畑酒造「真野鶴 純米生貯蔵酒」(税込み2000円)、中川酒造「越乃白雁 純米」(同2000円)、高の井酒造「越の初梅にこり酒」(同2100円)。越後亀屋が今回新たに作った手ぬぐいは、ピンク、黄、紺の3色。昔ながらの技法で染められ、ぬくもりが感じら

## うさぎ柄でかわいくエコ



うさぎの柄でぬくもりが感じられる「干支手拭包」。ピンク、黄、紺の3色

れる一品に仕上がっている。企画に参加した3社は、かわいらしい色柄の手ぬぐいで華やかさを出すことで、日本酒を飲む機会が増える年末年始に、新たな顧客を獲得したいとの思惑もある。実際、中元用に購入したのは、30〜40歳代の女性が多かったという。また、最近は容器の箱を不要とする人も多いため、手ぬぐいの使用で環境への負担軽減もアピールできるとしている。